

生涯学習フェスタ2018

～家族のきずな・地域のつながり～



「家族のきずな」エッセイ集



公益財団法人 **モロロジー研究所**

共催：麗澤大学／麗澤中学・高等学校／麗澤幼稚園

後援：千葉県／千葉県教育委員会／柏市／柏市教育委員会／我孫子市教育委員会／鎌ヶ谷市教育委員会／流山市教育委員会
野田市教育委員会／松戸市教育委員会／柏市PTA連絡協議会／柏市社会福祉協議会／株式会社ジェイコムイースト 東関東局



公益財団法人 **モロロジー研究所**

【協賛企業・団体】

50音順・敬称略

- | | | |
|--------------|---------------------|------------------------------|
| 青木建設(株) | ソニック設備工業(株) | (有)ビッグハートテラジマ |
| (株)アステップ | (株)ダイキョープラザ | (株)ピニオン |
| (株)アルバライフ | 大和証券(株) 柏支店 | 平山建設(株) |
| (有)飯田産業 | (株)高島屋 | ビルテック(株) |
| 家の光製本梱包(株) | 武田建装(株) | 廣池学園モロロジー事務所 |
| イオンモール柏 | (株)千葉銀行 南柏支店 | (有)廣瀬造園 |
| (株)イズミ | 千葉県モロロジー協議会 | フィールズ南柏 |
| ウォータースタンド(株) | 千葉タクシー(株) | (株)フーサワ |
| 鶴川興業(株) | (株)長正社 | (株)鮎忠 |
| SMBC日興証券(株) | (有)綱木工業 | (株)星広告 |
| (株)エヌ・ワイ・ピー | (株)テレ・ショット | (有)松正 |
| エミタスタクシー柏(株) | (株)東葛毎日新聞社 | 松戸モロロジー事務所 |
| (有)オオ美 | 東京海上日動ファシリティーズ(株) | (有)丸勝電気 |
| 鹿島道路(株) | (株)とうこうあい | 円徳建工(株) |
| 柏市民新聞社 | (株)東洋食彩 | 水代建材店 |
| 柏商工会議所 | (株)トータルビルメンテナンス | 三井不動産レジデンシャルリース(株)
名古屋営業所 |
| 柏モロロジー事務所 | (株)トヨタレンタリース千葉 | (株)三菱UFJ銀行 松戸支店 |
| (株)計画工房 | 流山モロロジー事務所 | モラージュ柏 |
| (株)ケイプロ | (株)ニチエイ・カーマックス | (株)ヤシマ・エコ・システム |
| 京葉ガス(株) | (株)日東建設 | 山崎公認会計士税理士事務所 |
| (株)コミニケ出版 | (株)日本ばし大増 | (株)山屋食品 千葉 |
| サンケイ総合印刷(株) | 日本ビルメンテナンス(株) | ユーシーシーフーズ(株) 松戸支店 |
| (株)色設計 | 日本フィールドシステム(株) 関東支店 | 横山印刷(株) |
| シナノ印刷(株) | (株)日本レストランエンタプライズ | 米屋(株)・なごみの米屋 |
| ジャトー(株) | (有)沼田電業 | (株)リニア |
| (有)ジング | 長谷虎紡績(株) | リフレッシュプラザ柏 |
| (株)スポットライフ | (株)花園サービス | (株)れいたくサービス |
| すみ建具店 | (株)花屋 | |
| セブンパーク アリオ柏 | ピーナッツサブレー本舗 富井 | |



「人づくり」による「国づくり」を モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

「感謝の心」

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切に尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

モラロジーとは

モラロジー (Morality) は、「道徳」を表すモラル (moral) と「学」を表すロジー (logy) からなる学術名で、「道徳科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合的な科学「総合人間学」です。

公益財団法人モラロジー研究所

モラロジー研究所は、道徳教育を推進する内閣府認定の公益財団法人です。大正15(1926)年創立、道徳科学の研究および倫理道徳の研究、道徳に基づく社会教育、学校教育、生涯学習を推進する教育団体です。法学博士・廣池千九郎によって創立、研究・教育・出版事業等を展開、生涯を通じて学びを深める「生涯学習」とともに、親から子へ、子から孫へと世代を重ねて道徳性を育む「累代教育」を提唱しています。

「家族のきずな」エッセイ集

平成30年9月30日発行 (非売品)

発行  公益財団法人
モラロジー研究所

〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2丁目1番1号

☎04-7173-3111(代)

<http://www.morality.jp/>

主催者の許可なく転載を禁止します。 6500

「家族のきずな」エッセイ集

目次

2 ごあいさつ 公益財団法人モラロジー研究所 理事長 廣池 幹堂

3 講 評 選考委員長
柏市小中学校校長会 会長 山本 和寿

最終選考委員

4 入賞・入選作品一覧

6 ご応募いただいた小学校

7 入賞作品

15 入選作品



ごあいさつ

公益財団法人モラロジー研究所 理事長

廣池 幹堂

モラロジー研究所では、本年九月三十日(日)に、「生涯学習フェスタ二〇一八」家族のきずな・地域のつながり」を開催いたします。この催しは、平成八年に始まり、今年で二十三回目を迎えます。

今年は、千葉県、千葉県教育委員会、柏市、東葛六市(柏、我孫子、鎌ヶ谷、流山、野田、松戸)の各教育委員会、ならびに柏市PTA連絡協議会、柏市社会福祉協議会、ジェイコムイースト東関東局のご後援をいただきました。また、ご協力いただいた各団体、協賛企業をはじめとする関係各位にも、あらためて厚く御礼申し上げます。この催しを通して、家族のきずなと地域のつながりが強まり、生涯学習社会の進展に多量なりとも貢献できればと願っております。

「家族のきずな」エッセイの募集は、今年で十六回目となります。東葛六市の教育委員会の協力のもと、各小学校に応募を呼びかけましたところ、七千四十二

編ものエッセイが寄せられました。本冊子には、その中から審査によって選ばれた入賞(千葉県知事賞ほか)八編、および入選四十二編を掲載しております。

小学四年生から六年生までの児童より寄せられたエッセイは、家族との心の交流や感謝の心、祖先を思う心、いのちの大切さなどが素直に表現されていて、どれもすばらしく感動的なものばかりです。ご応募いただいた児童、募集にご協力いただいた各学校と先生方、ならびに原稿の審査にご尽力を賜りました選考委員の皆様にも、厚く御礼を申し上げます。

家庭は教育の原点です。家族・親・祖先とのつながりを感じるとき、子供たちは喜びと生きる力を得ることができます。このエッセイ募集事業と、本冊子に掲載された心温まる作品が、少しでも「家族のきずな」を強め、家庭、学校、地域社会が一体となって子供たちの心を育てる契機となれば、まことに幸いに存じます。

講評

選考委員長
柏市小中学校校長会 会長

山本 和寿

今年も多くの皆さんから「家族のきずなエッセイ」を寄せていただきました。それぞれの家庭や家族の普段の暮らしの中にある愛情や思いやり、突然の出来事やきっかけに気付いた家族の気持ちや感謝の気持ちなどが自分の言葉で素直に生き生きと綴られていても温かい気持ちになりました。

来年には「平成」という時代が終わり新しい時代になります。寄せられた作品の中には曾祖母から聞いた戦争の体験談を書いた作品もありました。途切れることなく「家族のきずな」が繋がることは偶然と幸運の上に成り立ち、今の家族があるという事を思わずにはいられませんでした。

これからの社会は人工知能の発達で大きく変わると最近よく聞くようになりました。さらにいろいろなことが便利になり、社会の仕組みも変わっていくかもしれません。でも社会の始まりは人と人の繋がり。中でもその始まりは家族・家庭であることはこれからも変わらないと思います。いつまでも安心できる素敵な関係が繋がっている皆さんの家族のようにあってほしいと思います。

今回、皆さんの家族への思いが詰まった作品は、それぞれの家族・家庭のきずなや繋がりを改めて見つめ、さらに深めるきっかけになると思います。これからそれぞれの「家族のきずな」を大切に皆さん自身の未来の家族にも繋いでいってほしいと思います。

結びに、素敵なエッセイを寄せてくれた皆さん、ありがとうございました。そして、相手の気持ちを素直に受け止められる感受性と優しい思いやりに溢れたお子さまを育てていらつしやる、それぞれのご家族に心から敬意を表します。

最終選考委員

選考委員長	山本 和寿	柏市小中学校校長会 会長
副選考委員長	川原 容一	元柏市立光ヶ丘小学校 校長
選考委員	岩田 久美	柏市教育委員会 学校教育部指導課 副参事
	高橋 静	柏市教育委員会 学校教育部指導課 指導主事
	吉田 馨	(株)ジェイコムイースト 東関東局 局長
	宮下 和大	麗澤大学 外国語学部 准教授
	笠間 芳幸	麗澤中学・高等学校 教諭
	野々村 守春	モラロジー研究所 広報局長

平成30年度「家族のきずな」エッセイ
入賞・入選作品一覧

母の一言	柏市立柏第七小学校 6年	石田 展 琥
笑う角には福来たる	柏市立柏第八小学校 4年	石田 凜 々子
一言、一言を大切に	松戸市立根木内小学校 6年	井手 健 太郎
七年間の感しやの気持ち	柏市立花野井小学校 5年	伊 藤 未 藍
ぼくの楽しみな時間	鎌ケ谷市立五本松小学校 6年	入 澤 惺 南
カタチ	柏市立酒井根東小学校 6年	岩 井 は な
祖母からの贈り物	柏市立光ヶ丘小学校 4年	宇 川 晴 菜
お母さんとのきずな	柏市立柏第一小学校 5年	太 田 ひ な
ぼくの家の梨園	鎌ケ谷市立南部小学校 6年	大 野 七 樹
きずなをふかめたせんたくもの	柏市立柏第七小学校 6年	岡 野 眞 希
家族にはげまされて	柏市立中原小学校 5年	長 村 悠 希
家族で一つになれるとき	松戸市立寒風台小学校 5年	神 田 杏 実
夏の思い出	柏市立光ヶ丘小学校 5年	木 高 了
そのがんばりは一等賞	鎌ケ谷市立初富小学校 6年	來 山 葦 千 加
おばあちゃんの野菜	柏市立柏第一小学校 6年	木 原 貫 滋
心	松戸市立河原塚小学校 6年	齋 藤 真 結 子
母の大きな存在	柏市立柏第四小学校 5年	佐 久 間 愛 乃
家族への思い	我孫子市立我孫子第二小学校 4年	椎 名 美 晴
ぼくの左耳	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	鈴 木 晋 太 朗
忘れられない家族のひと言	流山市立八木南小学校 5年	鈴 木 七 海
手紙から伝わる祖母の愛	柏市立柏第一小学校 6年	関 祐 一 朗
産んでくれてありがとう	柏市立富勢小学校 6年	田 中 こ こ み
ぼくの夢	柏市立柏第一小学校 4年	中 馬 僚 祐
涙の手紙交換	柏市立大津ヶ丘第二小学校 5年	坪 井 泉 里
私のお母さん	柏市立名戸ヶ谷小学校 6年	寺 元 桃 子
悔しさと家族のぬくもり	柏市立酒井根小学校 5年	東 条 朱 扇
はじめての「ありがとう」	柏市立柏第三小学校 6年	中 島 梨 乃
大切な毎日	流山市立江戸川台小学校 6年	長 砂 知 里
いつもありがとう！	柏市立柏第一小学校 5年	布 目 和 也
生まれてくる命	柏市立柏第三小学校 5年	野 口 奈 々 美
「家族のきずな」ってすごい	柏市立西原小学校 5年	花 田 東 吾
辛い経験を乗り越えて	柏市立西原小学校 5年	平 昭 夏 憐
「ありがとう」はまほうの言葉	柏市立柏の葉小学校 5年	平 山 花 穂
お父さんから学んだこと	柏市立光ヶ丘小学校 5年	古 川 ひ な た
お父さんの一言	柏市立酒井根東小学校 6年	丸 山 輝
ひいおばあちゃんのやさしさ	柏市立花野井小学校 6年	山 室 智 咲
「百歳」から教えてもらったこと	松戸市立中部小学校 6年	山 本 亜 依
産んでくれたありがたさ	柏市立田中小学校 5年	吉 川 美 雨



千葉県知事賞

何回も 鎌ケ谷市立東部小学校 4年 し み す は る ひ
清 水 陽 妃



柏市長賞

私の大好きなおにぎり 柏市立中原小学校 5年 おお に し み ゆ
大 西 望 結



柏市教育長賞

おかえりなさい 柏市立光ヶ丘小学校 4年 ほ り そ う た
堀 創 太



柏市小中学校校長会会長賞

読めなかった手紙 柏市立土小学校 6年 か わ む ら い ろ は
川 村 彩 琶



柏市PTA連絡協議会賞

しかられるって悪くない 柏市立柏第四小学校 4年 か ね こ み れ い
金 子 実 礼



ジェイコム賞

わが家の合言葉 松戸市立新松戸西小学校 6年 や ま も と あ さ ひ
山 本 朝 陽



麗澤大学賞

恩返しをいつか 柏市立柏第三小学校 6年 し み す は る か
清 水 永



モラロジー研究所賞

ひいおばあちゃんが教えてくれたこと 柏市立柏第一小学校 5年 え び は ら み ゆ う
海 老 原 実 悠

入 選

★掲載順=氏名50音順

「タッチ」の意味	柏市立中原小学校 6年	芦 原 久 音 玲
しゃべる事ができない思い	鎌ケ谷市立五本松小学校 5年	荒 井 優 奈
ずっと友達	柏市立西原小学校 5年	安 齋 さ くら
与える	柏市立藤心小学校 5年	井 坂 莉 子

千葉県知事賞

何回も

鎌ヶ谷市立東部小学校 四年 清水陽妃

ひいおばあちゃんのたん生日に、にごお絵と手紙をあげました。

「ありがとう、上手だねえ。何年生になったんだい。」と、うれしそうに言われて、「四年生だよ。」

と答えたら、またすぐ後に「ありがとう、上手だねえ。何年生になったんだい。」と聞かれました。

ひいおばあちゃんは認知症という忘れてしまう病気で、し設にいます。何回も同じことを聞くので、最初は、ひいおばあちゃんがこわれてしまったと思いましたが、でも、やさしい笑顔は変わっていないし、いつも私に「かわいいね、大きくなったね。」と言ってくれます。

六回目の「ありがとう、上手だねえ：。」に返事をした後、ひいおばあちゃんは「ああ、うれしいね。」と言いました。すぐに忘れてしまうけれど、何回でも新しい気持ちで話を聞いてくれます。私は今日、ひいおばあちゃんに六回喜んでもらいました。私も六回うれしくなりました。だから私は、また、何回もひいおばあちゃんを喜ばせに行こうと思います。



ご応募いただいた小学校

★50音順

柏市 (33校)

柏市立 大津ヶ丘第二小学校
風早南部小学校
風早北部小学校
柏第一小学校
柏第二小学校
柏第三小学校
柏第四小学校
柏第五小学校
柏第六小学校
柏第七小学校
柏第八小学校
柏の葉小学校
酒井根小学校
酒井根西小学校
酒井根東小学校
高田小学校
高柳小学校
高柳西小学校
田中小学校
田中北小学校
土 小学校
手賀西小学校
富勢小学校
富勢東小学校
十余二小学校
中原小学校
名戸ヶ谷小学校
西原小学校
花野井小学校
光ヶ丘小学校

藤心小学校
増尾西小学校
豊 小学校

鎌ヶ谷市 (8校)

鎌ヶ谷市立 鎌ヶ谷小学校
五本松小学校
西部小学校
中部小学校
東部小学校
南部小学校
初富小学校
北部小学校

流山市 (9校)

流山市立 江戸川台小学校
おおたかの森小学校
長崎小学校
流山小学校
西初石小学校
西深井小学校
鱧ヶ崎小学校
向小金小学校
八木南小学校

我孫子市 (5校)

我孫子市立 我孫子第二小学校
新木小学校
高野山小学校
並木小学校
布佐南小学校

野田市 (2校)

野田市立 清水台小学校
北部小学校

松戸市 (20校)

松戸市立 柿ノ木台小学校
上本郷小学校
河原塚小学校
小金小学校
相模台小学校
寒風台小学校
新松戸西小学校
中部小学校
常盤平第二小学校
根木内小学校
八ヶ崎第二小学校
東松戸小学校
牧野原小学校
松ヶ丘小学校
馬橋小学校
馬橋北小学校
稔台小学校
六実小学校
六実第二小学校
矢切小学校

エッセイ応募総数 7,042編

応募小学校総数 77校

柏市長賞

私の大好きなおにぎり

柏市立中原小学校 五年 大西望結

私の大好きなおにぎりは、おじいちゃんの手作りおにぎりです。丸い形をしていて、ご飯の外側は手で持ってもくずれないぐらいのかたさで、内側はふわつとしていて、

具は、私の好きな鮭やみそをいっぱい入れてくれていて、のりが二枚、しっかりと巻かれていておいしい。

運動会に応援に来てくれる時は、朝早く起きて、たきたてのご飯でにぎって持って来てくれていた。そんなおじいちゃんが大好きだった。でも今年は、食べられない。今年の二月におじいちゃんが亡くなったからだ。もっといろいろな事を教えてもらってれば良かったと後悔している。

これからは、おじいちゃんに会いたくなったら、おにぎりを作ってみようと思います。

そして、大好きなおじいちゃんにほめられるような、おにぎりを作りたいです。



おかえりなさい

柏市立光ヶ丘小学校 四年 堀創太

ぼくには耳をすませて待っている音がある。

ペタン、ペタン、ペタンと足音がしてから、カタンとポストを開ける音。これはお父さん。ぼくが朝起きる前に家を出て、たくさん電車に乗ってお仕事をしてきたお父さん。つかれたかな。きつとビールを飲みたいと思う。おかえり。

カチャツと自転車をとめる音がしてタッタタツと軽くていきおいのある足音。これはお兄ちゃん。足が速くて運動が得意なお兄ちゃん。今日もグラウンドでたくさん走って、ボールをけつてシュートを決めたのかな。きつとおなが空いていると思う。おかえり。

トントントンと足音の後、ドサツと重いかばんを置く音。これはお姉ちゃん。本やノートをつまつかばんを持って、いつもむずかしい本を読んでいるお姉ちゃん。今日もたくさん勉強をしてきたのかな。きつとゆっくりお風呂に入りたいと思う。おかえり。

ぼくは家族のただいまの音が待ち遠しい。ぼくがねてしまう前に、みんな早く帰ってきてくれるといいな。



柏市教育長賞

柏市小中学校校長会会長賞

読めなかった手紙

柏市立土小学校 六年 川村 彩琶

私のつくえの引き出しには母からの手紙がたくさん入っています。

「あめになっちゃったけど、水ぞくかんもたのしいよ。」

「友だちと協力して思い出作ってね。」

といった手紙が校外学習や林間学校などのお弁当に必ずそえられていました。私はいつも手紙を楽しみにしていました。ある時その手紙を見た男子にからかわれて、はずかしくなり思わず手紙をぐしゃぐしゃにしてごみぶくろにつっこみましました。そしてそのまま忘れて捨ててしまいました。空のお弁当箱を母に渡す時、手紙に何と書いてくれたんだろうと考えたらなみだが出ました。母に訳を話すと

「元気に帰って来たからそれだけでいいんだよ。」

と笑って言ってくれました。

結局、あの時の手紙は読めなかったけど、それから母の作るお弁当と手紙は、私の楽しみで大切な宝物です。



しかられるって悪くない

柏市立柏第四小学校 四年 金子 実礼

わたしは三姉妹の中で一ばんよくお母さんにしかられます。お母さんの言うことをよくきくお姉ちゃんとおまえるのがじょうずな妹にはさまれたまん中のわたしは、短気なせいがかくがお母さんとにているので、よくしやうとつするのです。

去年お母さんが病気で入院することになってしまいました。その間おばあちゃんに来てわたしたちのめんどうをみてくれました。おばあちゃんもお父さんもやさしいので、あまりわたしをしかることはありません。

お母さんのお見まいに行っても笑顔でわたしの話を聞いてくれるだけでした。さいしょは「おこられなくてラッキー。」と思っていましたが何だかだんだん心細くさみしい気持ちになっていきました。そのときわたしはお母さんにしかられることも大切なコミュニケーションなんだなあと思いました。

今は元気になったお母さんに毎日しかられています。



柏市PTA連絡協議会賞

わが家の合言葉

松戸市立新松戸西小学校

六年

山本朝陽

「誰が最初に友達を作れるか競争！」

これがわが家の合言葉だ。わが家は、父の仕事の関係で引っ越しが多い。ぼくもこれまで埼玉、鹿児島、島根、千葉と引っ越しを経験している。今までくらししてきた環境を変えなければいけない引っ越しは、何度やっても不安なものだ。そんな時、わが家の合言葉が勇気をくれる。

この合言葉は、ぼくが初めて引っ越しをして、新しい幼稚園に行きたがらなかった時に、母がぼくを元気づけるために言い始め、三才下の妹の初めての転校の時にも役に立った。以前、母に、

「お父さんやお母さんにも友達ができただのは、あなたたちが友達をたくさん作ってくれたおかげだね。ありがとう。」

と言われたことがある。ぼくと妹を前向きにしてくれ、家族全員の気持ちを一つにしてくれた、この合言葉は、ぼくたち家族の宝物だ。



恩返しをいつか

柏市立柏第三小学校

六年

清水永

「はい、えいっぞ。」

今日も母は私に弁当を渡す。今となつては弁当を渡されるのもいつも通りだ。母は毎日、私に弁当を届けに来てくれる。

私は生まれて六カ月ごろから、いろいろなアレルギーに次々とかかり、給食を食べていけない。もし母が弁当を届けてくれなければ、私はふつうの学校生活をおくることができなかつただろう。私が思っているより、学校と家を往復するのは大変なことだと思う。母は雨の日も台風の日もレインコートを着て来てくれる。レインコートの中はむしっていて暑いだろう。だが、それでも母は何も言わずに弁当を届けに来てくれる。クラスメイトと少し話をした後、母は、

「午後も学校がんばってね。」

と言って帰る。その背中を見ていると、母への感謝の気持ちがわいてくる。

今は何もできなくてくやしけれど、いつか大人になったら恩返しするよ、お母さん。



モラロジー研究所賞

ひいおばあちゃんが教えてくれたこと

柏市立柏第一小学校 五年 海老原 実悠

私が二年生のとき、ひいおばあちゃんが亡くなってしまった。
ひいおばあちゃんが亡くなったと聞いた私は、しばらく何もできなかった。最後に会った時はとても元気だったから、私はいつものように「さようなら。」と言ったことに後悔した。あれが最後だったのに、「今までありがとう。」とも言えなかった。

ひいおばあちゃんと私は、とても短い時間しか一緒にいられなかったけれど、たくさん話を話した。特に心に残っているのは、ひいおばあちゃんが経験した、戦争の話だ。ひいおばあちゃんは若いとき、タイピストとしてボルネオ島に行った。そのとき船が攻げきされて沈没し、必死に味方の船まで泳いで助かったそう。ひいおばあちゃんがあるきらめず生きてくれたから、私は生まれることができたと思う。

これから大変なことがあっても、あきらめない気持ちを大切に頑張っていきたいと思う。



「タッチ」の意味

柏市立中原小学校 六年 芦原 久音玲

私は、毎朝父が会社へ、私が学校へ行く時に「タッチ」をする。これは、私も父もどんなに忙しくても必ずやる。この「タッチ」には、意味があると思う。「タッチ」した後に、私は「じゃあね。」と言うけれど、父は「気をつけてね。」と言う。今まで、交通事故で何人も人が命を失っている。そんなニュースを見るたびに、父の言葉が私に気をつけようと思わせる。以前は、何げなくしていた「タッチ」だったが、今は気付いたら毎朝の日課になっていた。それに、この「タッチ」をすると、今日も安全に気をつけて、学校へ行こうと思える。また、旅行へ行く時も、家族みんなで「タッチ」をする。これも、毎朝の「タッチ」と同じ意味なのだろう。

この日課がないと、危険に出遭うかもしれないと思わせる「タッチ」には、大切な意味がある。これからの一日のスタートとして、安全に気をつけようと思える「タッチ」が、ずっと続くといいなと思う。

しゃべる事ができない思い

鎌ヶ谷市立五本松小学校 五年 荒井 優奈

私のおじいちゃんおばあちゃんはしゃべることができません。なのでしゃべる時は手話を使うので、私もおじいちゃんおばあちゃんのために本を見て手話を勉強します。

パパがおじいちゃんたちが大変だからと言ってとなりに家を建てました。なので私は手話を使って話します。私のわからない手話もあってその時は紙に書いたり大変だけど、ちょっとだけしゃべろうとしてくれて私のためにいつもがんばってくれているので、おじいちゃんおばあちゃんのように、私は「ありがとう。」という気持ちを込めているいろいろな形のクッキーをプレゼントした。そしたらすごくうれしそうに「ありがとう。」と言ってくれた。

その時に、私はもし耳も聞こえない、それに少ししかしゃべることができなくても、一人の人に一生けんめいになろうとしてくれたり、その人へのちゃんとしたやさしい思いがあれば、何かできないことがあっても、その人の事で一生けんめいにやれば思いはその人にとどくと思えました。

ずっと友達

柏市立西原小学校 五年 安齋 さくら

わたしには、ずっと友達でいてくれる人がいます。五年生の新学期になってすぐ、水ぼうそうになってしまいました。すぐに治ると思っていたのに、一週間から二週間は学校に行けないと聞いて、とてもびっくりしました。

そんなに長く休んでしまったら、委員会はどのようなっちゃうんだろう、変わったことかを教えてくれる友達はあるかな、話す友達はあるのかな、とどんな不安がつのつていきました。

そんな不安を残したまま、学校に行く日の前日になってしまいました。そこでママに相談することになりました。そうしたら、ママは一生けんめい聞いて、一生けんめい考えてくれました。最後に、もし友達が一人もいなかったらどうしようかと聞いたら、

「それでも、ママがずっと友達だよ。」
と言われ、とっても嬉しくなりました。そして、ママに言っただけかと思いましたが、

与える

柏市立藤心小学校 五年 井坂 莉子

私は今年で十一才になります。ここまで来ることができたのは、家族がいたからだと思います。その家族は私にたくさんのことを与えてくれました。一番最初に命をくれました。その後には、「がんばれ。」や「大丈夫だよ。」という勇気の出る言葉をくれました。

先日、私は日本水泳連盟一級のテストを受けました。テストの直前私は緊張して泣きそうでした。その時お母さんが「大丈夫、楽しんでおいで。」という言葉をかけてくれました。その言葉をもらって私はがんばって泳ぐことができました。

ニュースでは、子どもが親に虐待をされて亡くなってしまったことが放送されているのをよく目にします。それは、生まれてきた家族を苦しめ、ひどい時には殺してしまうということです。「むかついたから。」言うことを聞かなかったから。

どんなことが理由でも絶対にしてはいけないことです。家族に「いやだなあ。」と感じても「ありがとうございます。」の気持ちを出すことが大切だと思います。

母の一言

柏市立柏第七小学校 六年 石田 展琥

母はいつもちよつと肩をもんだり、部屋を片付けただけで、「ありがとう。」と言ってくれる。だからほくもたまに、「励まし上手で料理もうまい!」と、ほめてあげることにしている。こんなにお互いの良いところを見つけあえるなんて、とても良い親子なんじゃないかと思う。

しかし、ほくもだんだん成長してきて、母の良いところを言うのが照れくさくなってきた。しかも最近は、少しの食い違いでケンカすることもある。「宿題やった?」と、やろうとしているときに言われるほど腹の立つ事は無い。それでも一応、ほくのため、言ってくれていることなので、毎回最後には仲直りはちゃんとする。

ただ、どんな時も母が最後に、「ありがとう。」と言うのが不思議だった。なぜ「ありがとう。」なのか。まだちよつと怒ってるくせに。すると母は、「もし明日からありがとうが言えなくなったら後悔するかだよ。」と言った。なぜか僕は、涙が出た。

笑う角には福来たる

柏市立柏第八小学校 四年 石田 凜々子

ある日私は、ことわざの勉強をしていて、「笑う角には福来たる」の意味を調べました。辞典を引いてみると、「いつも笑って明るくくらししている人の家には、ひとりでに幸せがやって来る。」と書いてありました。私は、

「うちの家のことだ。」
と、びっくりして、うれしくなって母に言いました。母も、

「本当だね。いつも笑っているもんね。」
と言って笑っていました。

私の家族はみんなおしゃべりが大好きです。いつもみんなでお話をしています。すると、私は、だんだん楽しくなって、どんどん笑顔になっていきます。家族の顔にも笑顔があふれます。特に父の話はおもしろくて、みんなで声を出して大笑いしてしまいます。家族で笑っていると、学校でいやなことがあっても、わすれて元気になります。

これからも、いつも家族で笑って、幸せにくらしていきたくです。

一言、一言を大切に

松戸市立根木内小学校 六年 井手 健太郎

去年の九月にぼくには、大きな出来事が起こった。それはぼくの祖父の死だ。今までは元気だったのにとつぜん入院し、悪くなる一方だった。

その中ぼくたちは、一日、一日、一言、一言を大切にしようと考えた。だがぼくは実行できなかった。なぜか恥ずかしかったからだ。

祖父はぼくの一言を聞かないまま一生会えない旅へと旅だった。ぼくはその時すごく情けなかった。祖父は苦しいのに、大切な一言をかけられずにいて。そして思った。自分のことだけを考え、人のことを考えない自分のほうがよほど恥ずかしいと。ぼくはその日が生きてきた中で一番くやしかった日だ。

ぼくはその日から、一言、一言を大切にしたい。例えば、親とけんかしても必ず「おやすみ」を言うこと、などをしてきた。ぼくはあのようなことがないようにしたい。次の日ぼくは一言を大切にすると祖父にちかった。

七年間の感しやの気持ち

柏市立花野井小学校 五年 伊藤 未藍

私は、家族に「私のことを思ってくれているなあ。」と感じることがよくあります。その中でも一番私のことを思ってくれていると感じる時があります。

それは、私は生れつき足にあざがあるので、そのあざを治すために神奈川の病院まで連れていってもらっていることです。

私はこのことを三才のころから今、十歳まで約七年間続けています。千葉から神奈川まで行くのに時間もかかるし、治りようをするのにもお金がかかります。それでもお父さんとお母さんは、わたしのために時間をおし、七年もの間、病院に連れていってくれています。私はそのことにとても感しやしています。

私が治りようをしてから、「いたかった。」と言うとお母さんとお父さんは「もうやめる？」と言ってくれましたが、いつも私のためにつくしてくれているので、これからも、一生けん命治りようをがんばろうと思います。

ぼくの楽しみな時間

鎌ヶ谷市立五本松小学校 六年 入澤 惺南

ぼくにはねる前に楽しみにしている時間があります。ぼくはその時間のことを「ゴロゴロタイム」とよんでいます。

「ゴロゴロタイム」にはふとんにねころんで、お母さんや弟と、今日学校で楽しかったことやサッカーの習い事の話などをします。歌を歌ったりしりとりをすることもあります。

この「ゴロゴロタイム」は、ねる前にやるので、そのためにぼくは急いで宿題をやります。弟が学校の準備をしないで遊んでいるときは、「はやく準備してゴロゴロタイムしよう。」と声をかけます。準備がはやく終わって「ゴロゴロタイム」の時間がたくさんできたときはとてもうれしいです。ねるのがもったいなくてずっとおきていたぐらいです。習い事があってねるのがおそくなったときは、なんだか心がしょんぼりします。

家族と過ごすこの時間が、ぼくは大好きです。これから大好きな家族と過ごす「ゴロゴロタイム」を大切にしていきたいです。

カタチ

柏市立酒井根東小学校 六年 岩井 はな

「ママのおなかの中にはね、はなの妹がいるの。」
「えっ?」と、思わず言った。一回、時が止まった。ずっと、ママは私のものだと思っていた。そのママが、新しい家族に取られてしまう!悔しかった。ママは「はなも大好きだよ!」と言ってなぐさめてくれたけど絶対にくそだろうと思った。新しい家族になる妹を、どうしても好きになれなかった。

十一月のある日。電話がかかってきた。
「赤ちゃんが生まれたよ。」

私は急いで病院に向かった。ガラスごしの妹は、すごく可愛かった。小さいのに、強い生命力。こんな妹にしっかりとしていたなんて、変だな、と今更思った。ママ、おめでとう。

それからもう三年がたった。ママは、私も妹も大好きだ。生まれてきてくれてありがとう。妹っていう小さな幸せのカタチは、家族に小さな花を、いっぱい咲かせてくれた。

祖母からの贈り物

柏市立光ヶ丘小学校 四年 宇川 晴菜

私の祖母は、とてもやさしくて愛にあふれた人でした。私が四歳の時に他界してしまいましたが、私が生まれてからずっと、たくさんのお話を教わりました。小さいころ、最初にチョコレートのお話を教わってくれたのは祖母です。おそろのおそろのチョコレートをかじってみた私は、その美味しさに目を輝かせながら食べていたと母は言います。祖母のおかげで、私は今の好物に出会う事が出来ました。祖母が亡くなった後も、祖母が教えてくれた事は私の中でずっと生きています。

私の好きなテレビ番組を一緒に楽しんでくれたり、祖母の書いた絵を見て喜んだり、大切な思い出ばかりです。

私は祖母が、そして家族が大好きです。祖母との幸せな日々を折にふれて家族で話しています。祖母と過ごせて本当によかったとしみじみ感じます。これからも、たくさんのお話を包んでくれた祖母に感謝しながら、家族のきずなを大切に、家族仲良く過ごしたいです。

ぼくの家の梨園

鎌ヶ谷市立南部小学校 六年 大野 七樹

ぼくの家は、梨園です。お父さんとおじいちゃんとおばあちゃんが梨を作っています。朝早くから暑い日も寒い日も毎日畑に行っています。梨ができるまでにたくさんのお話を聞いて、とても大変そうです。ぼくのお父さんは、毎日畑の仕事をしています。とても真っ黒に日焼けしています。

梨の季節がやってくるとみんなとてもいそがしく、夏休みはぼくも毎日手伝っています。お父さんたちが収穫してきた梨を家族みんなで箱につめていきます。そのうちにたくさんのお客さんが買いに来てくれます。ぼくもお客さんに梨を売ったりして手伝っています。毎年ぼくの家の梨を売りに来てくれるお客さんがたくさん来てくれます。お父さんやおばあちゃん、そのお客さんと楽しそうに話しています。

ぼくのおすすめは、「かおり」です。なぜなら大きくてりっぱだからです。たくさんの人に、おいしい梨を食べてほしいです。なぜならぼくのお父さんが作る梨は日本一だからです。

お母さんのきずな

柏市立柏第一小学校 五年 太田 ひな

わたしは、ときどきお母さんのことを（いやだなあ）と思うことがあります。それはたいいしかられている時。しかられる理由はわかっているけど、何だかイライラしてしまうんです。悪いことをして、しかられる時や、わすれ物でおこられる時に人のせいにするクセがあるのか、お母さんに反ここの態度をとってしまうことがよくあります。でも少し前、お母さんはこんな話をしていました。それはわたしが、

「ママ、『きずな』ってどんな意味なの？」と聞いた時。するとお母さんが言いました。

「きずなはねえ、人とのつながりとか、かわりみたいなもの。ママもおこったりする時があるけど、きらいだからってという意味でおこってるんじゃない。だめな事は注意するけど、ママはおうえんしているんだよ。」

わたしは、今でもお母さんがいやになることがあります。でもわたしはお母さんと大切なきずなで結ばれていることを今は知っています。

きずなをふかめたせんたくもの

柏市立柏第七小学校 六年 岡野 眞希

春のはじめのころ、お母さんの仕事がながびいて、帰りが十時ごろになっていた日でした。お母さんが帰ってきてからせんたくきをまわし、ねる準備をしました。三十分くらいでせんたくがおわってせんたくしたものをほそうとしたお母さんは、つかれてほす前にねてしまいました。そのとき私は、やってあげないと、思ってお母さんのほし方を自分なりにまねしてほしてみました。十分くらいしたらせんたくしたものがほしてあるのに気づいて、お母さんは、

「ありがとう。」
と喜んでくれました。私は、

「どういたしまして。やくにたてたかな。」
と言うと、

「すごくやくにたつたよ。またおねがいしてもいいかな。」

私はこの日、お母さんの大変さを知りました。これからは、お母さんのやくにたたいです。

家族にはげまされて

柏市立中原小学校 五年 長村 悠希

私は今、体調が悪くて学校を休んでいます。血圧が低いので起きるとめまいや吐気が出てしまい、体がまるでおもりがのっけているように感じます。初めの頃は治るのか心配で泣いてばかりいました。そんな時に母は、

「絶対によくなるから、出かけることは色々ためししてみよう。」

と言ってくれました。そして、治すために毎日やることを考えました。一つ目は、起きてから乾布摩擦かんふまさをすることです。二つ目は、薬を忘れずに飲むことです。三つ目は、めまいを起こさなくするためのストレッチや、体力が落ちないように少しでも散歩をすることです。この三つを忘れずにやろうと決めました。

父や母はいつも一緒にやってくれます。たぶん私よりもつかれていると思います。でも、いつも笑顔ではげましてくれます。少しずつですが、起きていられるようになってきました。心配をかけている家族のためにも早く治して、元気な姿を見せたいです。

夏の思い出

柏市立光ヶ丘小学校 五年 木高 了

多くの家には、ある場所で撮った写真が多くの歳の数だけかざってある。ぼくが生まれてから毎年必ず行くようになった熱海での家族写真だ。熱海はぼくの家族にとって遊園地へ行くようなワクワク感ではなく、おばあちゃんちのような落ち着いた場所なのだ。

熱海には三つの楽しみがある。一つ目はごはんがおいしい事。魚が好物のぼくにとって海の近くの新鮮なおすしの味は最高だ。二つ目は旅館の窓から見える花火がとてもきれいな事。色がきれいな上に音の大きさにびっくりする。三つ目は海水浴。砂浜の熱さと海水のしょっぱさと波の高さで足が付かなくなる怖さを家族みんなで感じて大きわぎする。

でも、ぼくが熱海が大好きな一番の理由は家族みんなで行けるからだ。熱海での家族写真には毎年四人全員が写っている。一枚目の写真から十年がたち、みんなの見た目もだいぶ変わったけど、四人の写真は昔も今もみんな笑顔だ。その笑顔だけはこれから変わらない。

家族で一つになれるとき

松戸市立寒風台小学校 五年 神田 杏実

私の家族は四人家族です。お母さん、お父さん、お姉ちゃん、私です。私は、「この四人の家族で一つになれるときは、どんなときなのだろう。」と思いました。

私の家族の場合は、お父さんが仕事のことです少し怒りっぽいときがあるので、機嫌が良いときにたくさん話せます。家族の仲はいいけれど、私は家族が一つになるときはあまりないような気がするのです。家族で毎日協力し合い、一つになれるらいいと思います。

そんな中でも、私がすぐに頭にうかんだ家族が一つになれるときは、ホットプレートで食事をするときです。たとえば、焼き肉やもんじゃ焼き、お好み焼きを焼いているときです。

そう思った理由は、一人一人にすることが分担されているからです。お母さんと私は、もとを作る係で、お父さんとお姉ちゃんが焼いているとき、みんなで応援しています。これが、私の家族が一つになれるときです。

そのがんばりは一等賞

鎌ヶ谷市立初富小学校 六年 來山 葦千加

今年の四月三日、私のおじいちゃんが脳梗塞のうこうそくでおれた。命に別状は無かったが、左半身がマヒしてしまっていた。

おじいちゃんは、私と弟の、特に私のは、小学校最後の運動会だから、今年の運動会は絶対に行くと言って、リハビリをがんばっていた。だが、おじいちゃんは運動会に来れなかった。

今まで五年間、私達の運動会を見るために毎年、おじいちゃんとおばあちゃんは広島から千葉まで来てくれていた。運動会が終わったら、「がんばったねえ。えらい、えらい。」と言ってくれた。今年はおじいちゃんもおばあちゃんも来ていないけれど。でも私は、おじいちゃんに見せたくて、団体演技も、全力で、精一杯がんばった。一等賞のシールもとった。

おじいちゃんはどうも回復している。退院したら一等シールをあげよう。だって今までのおじいちゃんのがんばりは一等賞だから。

おばあちゃんの野菜

柏市立柏第一小学校 六年 木原 貫滋

ほくのおばあちゃんが育てた野菜は、とてもおいしくて大好きです。

ふだんは食べないキウウリも、おばあちゃんの畑でとって食べるととってもおいしいです。

おばあちゃんは、ほくたちが食べるから、野菜を育てる時に、葉は使いたくないと、朝早く畑に行つてわりばしで虫を一つ一つとっていると聞いていました。

そんなおばあちゃんの野菜は、とってもおいしくて、たくさん食べてしまいます。

おばあちゃんは、ほくを見て

「次は何を作ろうか。」

とうれしそうに話していました。この前、

「もうすぐジャガイモができるからほりにおいで。」と電話がありました。とても楽しみです。

たくさんジャガイモをほって、少しでも、いつもがんばっているおばあちゃんの手伝いができればいいなと思いました。

心

松戸市立河原塚小学校 六年 齋藤 真結子

最近、私はすぐ母にあたってしまふ。なぜだろう。ずっとそう思っていた。

そんなある日、また始めてしまった。でも、もうかっとなり、さんざんいやな事をぶつけた。それに最後は一人でいじけて悲しい気持ちになってしまった。その私の手を母はやさしくにぎり、こう言った。「お母さんはね、子どものことがきらいになることなんてないの。あなたのいいところだって、いっぱい知ってるよ。だから自分で自分をそんな風に言わないで。私はあなたの事大好きだよ。」

母の言葉が一言ずつ、胸にしみて、私の目にはいつの間にか、涙があふれていた。そんな私を母は静かに抱きしめてくれた。

私はこの母の言葉で、おたがいが大切に思い合っていることを確かめることができた。

おたがいがおたがいを思い合う心。これが、私の家族の、きずな。

母の大きな存在

柏市立柏第四小学校 五年 佐久間 愛乃

私の母は、かた耳が聞こえない。一年前にとっばつせいなんちょうという病気になってしまった。その日は、授業参観で見に来てくれた。家に帰ると「耳が変だから病院にいってくる。」といって五時すぎに家を出た。だけど七時半になっても帰ってこない。おかしいと思って友達の家で待ってた。すると、父から電話がきた。「救急車で運ばれた。」と言われた。すごくこわかった。命を落としてしまったかもしれない。父は大丈夫だと言っていたけど心配だった。

五月に少し入院した。その間だけ、父と弟と私で分たんして家事をやった。ものすごく大変だった。いつもいるのが当たり前で母がいなくなるなんて考えたこともなかった。でもないかととても大変で母の大きな存在に気づいた。

今でもかた耳は聞こえない。でも、私たちのために、働いてくれている。みんなより大変なのにがんばってくれている。私はそんな母が大好きだ。私は、大人になったら母みたいな人になりたい。

家族への思い

我孫子市立我孫子第二小学校 四年 椎名 美晴

ぼくは、男子の双子のお兄さんで生まれました。生まれたころから目が悪く、めがねが合うまで、良く見えませんでした。なので字を書くことが苦手です。いっしょうけんめい書いても、ついていけませんでした。

双子の弟は、勉強も運動もできて、うらやましくてくやしいです。でもぼくの弟は、勉強も運動も教えてくれてうれしいです。

お母さんは「弟といっしょでなくても良いよ。」「良いところがたくさんあるから。」と気づいてくれて、うれしいです。

お父さんとお母さんは「うまくできなくても良いからさいごまであきらめずにやりぬきなさい。」と、いつもはげましてくれまふ。

家族にありがとうと伝えたいです。

これからもがんばって勉強と運動をさいごまであきらめずにやりぬきたいと思ひます。これからもなかよくくらししていきたいです。

ぼくの左耳

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年 鈴木晋太郎

ぼくは、左の耳が聞こえません。なぜなら、一年生の時におたふくかせになつて、とつ然聞こえなくなったからです。

すぐに入院して治りようをすることにになりました。初めての入院だったのでとてもドキドキして、どうしてという不安な気持ちでいっぱいになりました。だけど入院中は、お母さんがずっと付きそつてくれたので安心して過ごしました。

お父さんやおばあちゃんやおじいちゃんがおみまいに来てくれたり、家でるすばんをしている兄のためにおばあちゃんが手伝いをしてくれたりしました。家族みんなが助けてくれたので、つらい治りようを乗り越えることができました。

治りようのこう果はなくて、ぼくの左耳は聞こえないままですが、右耳は聞こえます。聞こえる右耳を大切に、元気に強く生きていきたいです。

忘れられない家族のひと言

流山市立八木南小学校 五年 鈴木七海

わたしは小さいころから、お母さんに言われている大好きな「ひと言」があります。それは、たん生日になると、いつも手紙に書いてくれる「七海は、ママのたからもの」という言葉です。

わたしは、いつもこの言葉を聞くと安心します。でも、お母さんにおこられた時は、「何でたからものわたしにそんなひどいことを言うんだろう。」と思つたこともあります。

おこられると「ママなんて、大きい。」と思つたこともあります。不思議とお母さんのことは、きらいになれません。

お母さんと妹とわたしは三人で交かん日記をしています。お母さんは口ではきびしいことを言うこともありますが、交かん日記の中でははげましてくれたり、よく「たからものだよ。」という言葉を書い てくれたりします。この言葉を聞くと元気がでます。単身ふ任中のお父さんも、よく手紙をくれます。

うまく言えませんが、「家族のきずなは何?」と聞かれたら、「手紙」なのかな、と思ひました。

産んでくれてありがとう

柏市立富勢小学校 六年 田中ここみ

私には、お姉ちゃんがいる。お姉ちゃんが産まれたときに、お母さんが病気になった。次産むのは、むりだとお医者さんに言われた。

でもお母さんはあきらめないで三回チャレンジした。お母さんも命がけだった。そして、四回目が私だった。お母さんも今回とは思っていたが、お医者さんにお母さんも赤ちゃんもたすからなといわれた。でもお母さんは産むと決心した。お母さんは、お父さんと、お母さんのお兄ちゃんにおねがひした。お父さんとお兄ちゃんはお医者さんにあたまを下げ、おねがひした。

そして、大手術をした。おなかを開けて子宮も開けて赤ちゃんの私をだした。私はすぐなかなかつたのでせなかをたたいてもらいました。そして、赤ちゃんの私は泣きました。するとお母さん、お父さん、お姉ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、家族みんなよろこびました。その後手術をおえてお母さんもとってもよろこびました。

お母さん、産んでくれてありがとう。

手紙から伝わる祖母の愛

柏市立柏第一小学校 六年 関祐一朗

「おばあちゃん、入院だつて。」

一瞬、頭が真っ白になった。腰が悪くなったのは知っていたが、入院だなんて思つてもいなかつた。不安で頭がいっぱいになった。

祖母の体のことはもちろんだが、忙しくなつてしまった家族のこと、そして僕にとって何より気がかりだつたのは、運動会である。

おそらく来られない。小学校最後の運動会。家族みんなに見てほしかつた。祖母だつて行きたかつたにちがいない。仕方ないとわかつていても、いつもいるはずの祖母がいなと思うと、たまらなくさみしい。でも、運動会前日に、祖母から手紙が来た。「運動会、ごめんね。その場になくても、病院から応援しています。」

あとは涙でにじんで読めなかつた。メールや電話なんかより、ずっと気持ちが伝わつてきた。祖母の思いは、いつでもそばにあるんだ。そう思うときびしさはもうない。ありがとう。僕は、その思いと一緒に走つた。

ほくの夢

柏市立柏第一小学校 四年 中馬 僚祐

ほくの夢は、空手で日本一になることです。ほくが空手を始めたのは、四才のころでした。初めのうちは、先生がこわくて、やめたいと思ったことが何度もありました。でも、お父さんやお母さんがはげましてくれたので、がんばろうと思いました。今でもよく覚えています。

そして、空手をつづけて五年目になりました。その間、し合に勝つために、習志野や市原までけいこに通うこともありました。お母さんといっしょに電車を通ったり、お父さんが仕事が終わった後、車でむかえにきてくれました。そして、し合でとても良いけつかを残しました。お父さん、お母さんもいっしょによろこんでくれました。そんなお父さん、お母さんに心から感しゃしています。

いつも、ほくの夢をおうえんしてくれる家族はぼくととってかけがえのないそんざいです。これから感しゃの気持ちを忘れずに、自分の夢にむかってがんばります。

私のお母さん

柏市立名戸ヶ谷小学校 六年 寺元 桃子

私のお父さんとお母さんは、とても仲がよくて、おもしろいです。お父さんとお母さんは、ガス会社で働いていて、いつも帰りがおそいので、私は塾で勉強しています。

ある日私がお手伝いをしないで家でダラけている時、お母さんに「少しはお前もお手伝いをしろ。」と怒られました。すると私は「勉強たくさんしたからいいじゃん。」とお母さんに強く言ってしまいました。その時お母さんは何も言っていませんでした。ある日お母さんが会社でたおれてしまい、お父さんが早くむかえにきました。お母さんは家に帰ってきていて、原因はストレスだそうです。お母さんは仕事で大変なのに、毎日頑張って仕事をしてくれているのに、私はいつのまにかお母さんにあたってしまいました。

今はとても元気だけど、次はしっかりお母さんのお手伝いをして、言葉に出せなくても行動で感謝の気持ちを伝えようと思いました。

涙の手紙交換

柏市立天津ヶ丘第二小学校 五年 坪井 泉里

今でも心に残っていることがあります。それは、四年生の時に行われた、「二分の一人式」です。将来の夢や今できる努力、合唱などで、親に気持ちを伝えました。

その中でも特に、親子で手紙を読み合う、「手紙交換」が心に残っています。手紙を読むまで泣いていませんでしたが、読み始めると、涙が止まらなくなりました。お母さんとお父さんは、だまって僕の思いを聞いてくれました。手紙を読み終わると、お母さんは鼻をすすりながら抱きしめてくれました。

お母さんとお父さんの手紙は、「泉里は物事を深く考えることができる。それはとても大切なことだよ。」といった内容でした。僕の事をちゃんと認めてくれると感じ、うれしくなりました。

お互いの手紙を交換すると、三人で号泣しました。その時は、改めて「ありがとう。」と心の底から思うことができました。

悔つれと家族のぬくもり

柏市立酒井根小学校 五年 東条 朱扇

私は吹奏楽部で、運動が苦手です。でも、私は運動会のリレー選手になってみたいという思いがありました。ただ、運動が苦手なのでがんばることしかできませんでした。結果が出た日、私は選ばれませんでした。でも、私の妹が選手で選ばれました。私はその直後妹に向かって、

「おうえんできない。」

と泣いてしまいました。どうしても悔しくて、おうえんできる気持ちじゃありませんでした。そしたらお母さんが来て、

「大丈夫、私はあおの良い所をたくさん知っている。そのことでがんばれば良い。選ばれなかったのは、実力じゃない。全力で走ったらそれはその結果。自分を信じて、色々なことにチャレンジして、失敗しても大丈夫。私はずっとあなたの味方。」

と言ってくれました。その時、なにかの固まりがとけたのか、涙があふれました。私は心の中で、家族がいると何にでもがんばれると思いました。

今思うと妹にはできない私の良い所があると思い、それをのびしていこうと思いました。

はじめの『ありがとう』

柏市立柏第三小学校 六年 中島 梨乃なかしま りの

私の祖父は頑固でわがままで。口は乱暴、態度も悪い。私はそんな祖父があまり好きではなかった。

ある日、祖父がいとこと遊んでいると、急に左手足を痛がった。そして救急車で運ばれた。診断の結果『脳卒中』と判明したため、緊急手術を行った。私は心配でしかたがなかった。そして、二時間後無事手術を終えた。しかし、左半身にマヒが残った。一週間後おみまいに行こうという話になった時、祖母が、

「おじいちゃん、泣いているかも。」

と一言つぶやいた。いや、祖父が泣くはずない、あの祖父が……。病室に入り、私の存在に気づくと、祖父の目から一筋の涙がこぼれ落ちた。「ありがとう。」と言いながら。私は祖父のありがとうをはじめて聞いた。心のこもったありがとうだった。

『ありがとう』は、人の印象を変えるレバーだ。祖父の「ありがとう。」は私の大切な宝物となった。

大切な毎日

流山市立江戸台小学校 六年 長砂 知里ながすな ちさと

あの日は、いつもと変わらない日常でした。いつもみたいに、テレビを見ながら、ご飯を食べていると母が電話越しに、

「ガン!? 大丈夫なの?」

と、おどろいた様子で話していました。私は初め、あまり自分には関係ない事だと思っていました。なぜなら、私の家族は元気だし、おばあちゃん達も元気だったからです。私が、

「誰がガンになったの?」

と聞くと、

「バアバだよ。」

と母が言ったので、私は、おどろきと不安でいっばいになり、泣きそうになりました。

二日後、岡山県に、車でバアバのおみまいに行く、バアバは優しい笑顔で、

「手術は無事成功して、元気だよ。」

と言いました。それを聞き私は安心しました。

私は、あたり前の毎日がかけがえがないという事を知り、一日一日を大切にしていこうと思いました。

うしもあひがうひー!

柏市立柏第一小学校 五年 布目 和也ぬのめ かずや

お母さんはいつもご飯を作ったり、せんとくをしたりしてくれてありがとう。家事だけでも大変なのに、妹の面倒を見たり、ぼくの勉強を教えてください、習い事の仕事をしたりしてすごいなと思います。習い事でやってる野球では、

「ヒットを打って。」

などといわれると絶対打ってやると気合いが入るので、日々の練習に力が入ります。そのおかげでぼくは野球が上手くなれます。時間を見つけては、応援に来ってくれるのでうれいす。運動会でリレーの選手になれたときは、自分の事のように喜んでくれました。

そんなぼくの事を自分の事のように喜んだり、くやしがつたりしてくれるお母さんがぼくは大好きです。お母さんがつれてつてくれなければ、野球をやっていないかもしれません。本当に感しゃしています。大変なのにいつも、めいわくかけてごめんね。そして、今まで本当にありがとう。

生まれくる命

柏市立柏第三小学校 五年 野口 奈々美のぐち ななみ

私のお母さんのおなかの中には、新しい命(家族)がいます。七月十日が予定日です。

私が見つけたのは、クリスマス朝、真っ赤なふうとうの中に小さな絵本が入っていました。絵本の中には、未来の赤ちゃんからのメッセージが書いてありました。私はそれをみて、涙があふれ出しました。メッセージの中には、おなかの赤ちゃんの写真もありました。メッセージには、

「奈々美おねえちゃんへ わたしは、いま、ママのおなかのなかにいます。七月十日ごろ、おねえちゃんにあえるのをたのしみしているよ。いっぱいあそんでね。」

と書いてありました。私はそれをみて、あらためて命はすごいと思いました。私自身も妹や弟がほしいと思っていたので、とてもうれしい気持ちと感動でむねがいっぱいになりました。

私には、生まれてくる赤ちゃんにしてあげたいことがたくさんあります。初めに、「私がお姉ちゃんだよ。」と言いたいです。

「家族のきずな」こしおぶる

柏市立西原小学校 五年 花田 東吾^{はなだ とうご}

多くの誕生日は、三月二十六日。四月から幼稚園に入園の予定だった。でも、二〇一一年三月十一日、ぼくは東日本大震災に遭った。
次の日の朝、福島県から千葉県に避難した。その頃の事を、ぼくはほとんど覚えていない。でも家族は、

「東吾がいてくれたから乗り越えられた毎日だったんだよ。ありがとう。」

と今でも繰り返す。

初めての土地に来た母は、ぼくの事を「この子だけは、何があっても絶対に守る。」と強く誓ったそうだ。

今は、祖父母もみんな近くに住んでいて、五年前には、弟も生まれた。

震災から七年たった今でも母は、十才になったぼくの成長の一つ一つが嬉しいと、すぐに感動して泣いてしまう。

「家族の笑顔が本当に嬉しい。」と、いつも言う。ああ、「家族のきずな」ってすごいなあ。

辛い経験を乗りこえて

柏市立西原小学校 五年 平昭 夏憐^{ひらあき かれん}

去年の四月に私のお父さんが交通事故にあいました。事故の知らせをお母さんに聞いたときは「えっうそでしょ。」とうけとめられませんでした。病院に着いてお父さんのすがたを見た時、なみだが止まりませんでした。お父さんが死んじゃったらどうしよう…。そう思うと、不安でたまりませんでした。

その次の日からお母さんは毎日朝から夜まで病院へ行きました。お母さんもお父さんもいなくてすぐくさびしかったけれど、私も家族の一員として何か出来ないかなと考えました。弟の面倒、おばあちゃんと一緒に夜ごはん作り。私にできる事は何でもやりました。

一年後。お父さんはつらいリハビリを終えて、私たち家族の元に帰って来てくれました。事故の後い症でお父さんは車いすの生活になってしまいました。辛が、中身はいつもの強いお父さんのままでした。辛い経験でしたがこの出来事が私たち家族の絆を強くしてくれました。これからも家族で仲良く暮らしていきたいです。

「ありがとう」はまほの言葉

柏市立柏の葉小学校 五年 平山 花穂^{ひらやま かのん}

わたしのお父さんは、ひぎをけがしてしまい、手じゅつをしてまつばづえの生活になってしまいました。た。

お父さんが家に帰って来て最初のほうは、お父さんのことを手伝うのがとてもめんどくさくてあまり手伝っていませんでした。でもいつもお父さんの大変なすがたを見てわたしは少し悲しくなり、もう見ていられなくなってドアをあけたり荷物を持ってあげたりして体が自然に動けるようになりました。そしてわたしが一番うれしいのは、お父さんが「ありがとう。」と言ってくれることです。お父さんが「ありがとう。」と言ってくれるとわたしの心があたたかくなってお父さんのためなら、たくさん手伝ってあげようと思います。そしてまほうのように元気になるります。

今は、まつばづえがなくなってほっとしています。でもまだちゃんと歩けるわけでもないし、ひぎも痛そうなのでいろいろなことを手伝ってあげたいと思います。

お父さんから学んだこと

柏市立光ヶ丘小学校 五年 古川 ひなた^{ふるかわ ひなた}

私のお父さんは学校の先生です。毎日、朝早く家を出るので、

「どうして。」

と聞いてみました。すると、

「そうじをするからだよ。」と答えました。生徒が来る前にみんなが気持ち良く過ごせるようにするなんて、私のお父さんにしかできないと思いました。

また、お父さんはおはか参りに行くと、一生懸命すみずみまでそうじをします。おじいちゃんはお父さんが小学六年生の時に亡くなってしまったので、心を込めてそうじをしながらおはか話しかけているんだと思います。

私もお父さんのようにみんなが気持ち良く過ごせるよう、だれも見えないところでも進んでいいことができるようにしたいです。そして、今度、おはか参りに行ったら、おじいちゃんが喜んでくれるようにきれいにそうじしたいです。

お父さんの一言

柏市市立酒井根東小学校 六年 丸山 輝まるやま ひかる

ぼくは今、サッカーをしている。年長の時に始めて六年間やっている。ぼくが所属しているチームは、パスでゴールを目指す昔からの古豪だ。そのチームをまとめるキャプテンをつとめている。ぼく達は四、五年の時不安やあせりが多く、千葉県大会では、予選落ちなどおもうように結果がだせなかった。ぼくはこれからどうすればよいのか分からなくなりお父さんに相談した。すると、

「輝は、今何をすべきかチームに何が必要かをよく考えな。おれたちは、輝がチームに貢献している姿が見ればそれでいい。」

という言葉が返ってきた。ぼくはこの言葉を聞いて何だか気持ちが悪くなった。お父さん、お母さんがこんな思いで見守ってくれていたなんて思っていなかった。改めて気がひきました。

両親のため、自分のため、チームのためにできることをする。チームに何が必要かを考え実行する。

「さあ、最後の一年がんばるぞ!!」

ひらおばあちゃんのをやれつね

柏市立花野井小学校 六年 山室 智咲やまむろ ちさき

わたしのひいおばあちゃんは、現在九十二さいで、会うたびいつも笑いかけてくれる、やさしい人です。そんなひいおばあちゃんと写っている一枚の写真が私の大切な宝物です。周りの人から見ると、「ただの写真でしょ。」と思う人も少なくないと思います。しかし、ひいおばあちゃんは富山県にいて、会えるのは一年に一回ほど。だから、その写真はとても大切なものなのです。

そして、ひいおばあちゃんとの一番の思い出は、今年の夏、親族みんなでしたバーベキューです。そこでは、花火、スイカわり、バーベキューの三つを行いました。そこで、私は、ひいおばあちゃんが親族みんなへの気づかいをかかさずしていたのを見ました。

そこで私は、ひいおばあちゃんのように、家族へのやさしさは、決して忘れてはいけないと思い、家族はいつまでも大切にしていこうと決心しました。

「百歳」から教えてもらったこと

松戸市立中部小学校 六年 山本 亜依やまもと あい

私には、「百歳のひいおばあちゃん」がいます。百歳と聞いたとき「一世紀つてどれくらい長いんだろう?」と思いました。私は今十一歳です。なので約十倍も生きているということを知り、「すごいな。」と思いました。

百年前は、大正時代です。まったくイメージがわかりません。なぜなら、歴史の教科書二十ページ分を生きているので、私の日常生活に欠かせない、自動車やテレビがないからです。歴史の教科書を見て恐怖心を抱いた太平洋戦争。ひいおばあちゃんは生き抜いたので話を聞いたことがあります。戦争で家や女学校の友達をなくし、野菜を一からつくって精一ばい生きていた、と話してくれました。そしてお母さんが三十歳の時、「人生八十年。あと五十年生きるんだから好きなことを見つけなさい。」と教えてくれたそうです。

大変な時代があつておじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、私とつながっているのです、命を大切にして生きたいです。

産んでくれたありがとう

柏市立田中小学校 五年 吉川 美雨よしかわ みりゅう

「ありがとう。」心の中で言う。でも、口にしては、言えない。心の中で思っていることは、ほんたいのことを言ってしまう。お母さんにおられると「何で、私を産んだの?産まれてしまったの?」と心の中で自分に何度も問いかける。泣きながら。

でも、その後に思う。「もし、産んでくれなかったら、楽しいことも、悲しいことも、何もかもなかったかもしれない。」こう思うことがある。だから思い出ファイルを見て自分が産まれた時の写真を見ると、泣いている小さい私と泣き笑いをしうれしそうなお母さんがうつっている。そして、一才の時の写真を見るとすごく大事そうに私を育てている所がうつっている。

なぜ心に思っていることは言えないのに、思っていないことを言ってしまうのか。それがどうしても、心の中でひっかかる。でも心の中で思っていることを言うと、少してれくさいから、口では言えない。だから、心の中で大きな声で言う。産んでくれてありがとう。

平成30年度

募集要項

応募資格 東葛6市（柏・我孫子・鎌ケ谷・流山・野田・松戸）の小学校に通う4年生～6年生の児童。

応募方法 下のチラシの裏の原稿用紙に、400字以内におさまるように書いてください。
原稿は、皆さんが通う小学校で集めます。

裏面に書いてください。



募集期間 平成30年5月1日(火)～6月30日(土)

賞 ①入賞 8点 賞状と副賞
②入選 42点 賞状と副賞

発表・表彰 ①平成30年9月30日(日)「生涯学習フェスタ2018」
11:00より入賞ならびに入選作品の発表と表彰式。
②表彰式では入賞作品の朗読と入選者を紹介。

その他 ①応募作品は未発表で日本語のものに限ります。
②入賞・入選作品に関する著作権は主催者に帰属します。
③入賞・入選の作品は主催者発行の『エッセイ集』、ホームページ、協賛企業でのパネル展示等にて紹介します。
④作品中のプライバシー、個人情報に関して主催者は一切の責任を負いません。
⑤入賞・入選作品を公表する際の表記統一など主催者の判断で修正させていただくことがあります。